

# 湘南藤沢学会研究助成金 成果報告書

慶應義塾大学 加藤文俊研究室

総合政策学部3年 小田島純 城間さくら

環境情報学部3年 橋本彩香 家洞李沙

## 1 活動名称

IKEZカタログーエがかれる都市計画とその実態の乖離への批評活動ー

## 2 展覧会開催情報

加藤文俊研究室フィールドワーク展XIII たんぽぽ

2016年2月4日（土）～2月6日（日）

（BUKATSUDO 横浜市西区みなとみらい2丁目2番1号 ランドマークプラザ 地下1階）

## 3 活動目的

横浜みなとみらい地域（本プロジェクトでは、横浜ランドマークタワーから半径500m圏内と定義する）において散見される少し不便あるいは不可解に感じられる状況を楽しく緩衝するための工夫集をカタログという形で示す。それによって、当該地域を訪れる人々、ひいては都市生活者がより主体的に、居心地よく滞在することができるような新たな都市の見方を人々に提案する。

## 4 活動内容

我々のグループは、2016年秋学期期間中、まちを利用していて素朴に「いけずだ」と感じる状況（生活していて「通れない・使えない・わからない」などといったもどかしさを覚える状況）とその緩衝方法の記録・考案を行った。

100を超える「いけず」とその緩衝事例を集めた上で、横浜みなとみらい地域の「いけず」は都市の「作り手」と「使い手」の乖離によって生じているという仮説を立てた。具体的には、前者は一般社団法人横浜みなとみらい21や横浜市都市整備局、後者は観光客や当該地域の住人などが該当する。「作り手」側はパブリックスペースの細部に至るまで、ある用途や世界観を想定して設計しているはずだ。しかし、実際にその場所を訪れる「使い手」はその意図を必ずしも汲み取れていない。そもそも、「使い手」のために用意された空間であることに気づかず、通り過ぎてしまうことさえある。だが、都市を活気に満ちた空間にするためには、「使い手」側が柔軟に思考を巡らせ、都市に埋没している活用可能性に気づくことが必要なのではなからうか。

ヤングールが『建物のあいだのアクティビティ』で提示する「ふれあいの濃度」という指標から考えると、現在の横浜みなとみらい地域は「作り手」と「使い手」のあいだにコミュニケーションが生まれず、双方の「孤立状態」にあるといえる。「使い手」が、「作り手」がパブリックスペースに込めたメッセージを受け取り、「作り手」側は都市の現在の使われ方をより積極的に知ろうとすることで孤立状態が受け身のふれあい・偶然的ふれあいへと変化していくのではないかと。我々は「いけず」な状況とその緩衝事例をカタログという形で提示することで、そうした「作り手」と「使い手」の相互的な歩み寄り、つまり関係変革を目指している。

## 5 活動成果

集めた「いけず」事例や考察内容を元に制作したIKEZカタログを、フィールドワーク展（以下、FW展）で展示・お渡しした。我々は来場者の方々にカタログを読んでいただくのと共に、本カタログの制作目的（上述「活動内容」参照）についても詳しく紹介するよう心がけた。来場者からは、「展示を見聞きすることによって、いけずと称される対象との距離が縮まった感じがした」「実際にカタログに掲載されたいけず緩衝事例を試してみたいと思った」等の感想を多くいただいた。

同時に、FW展期間中にメンバーが各1回ずつ、計4回のツアーを実施した。ツアーでは各人が「いけず」緩衝グッズを携帯した上で横浜みなとみらい地域に赴き、実際に「いけず」緩衝を体験してもらった。こちらは各回4~10人前後の方に参加していただき、「自分たちが生活する空間をより良くする、という意識をもってまちに出ると、まちが楽しくなる」などといった声を聞くことができた。こうしたことから、FW展にご来場いただいた方々に「作り手」と「使い手」が相互に歩み寄りという意識をもてただけなのではないかと考えている。なお、IKEZカタログは現地で18冊お渡しした他、会場となったBUKATSUDOに会期後も1冊置いていただけることとなった。これによって、FW展後も横浜みなとみらい地域を利用する人々に見ていただけるようにした。

## 6 成果の活用

FW展でカタログを見てくださったのは専ら都市の「使い手」側に属する人々だ。我々は、今後都市の「作り手」側にあたる組織にIKEZカタログを送付する計画を立てている。それによって、「使い手」側の意識変革によって都市はより魅力ある場所になるということを「作り手」側の人々にも認識していただきたい。「作り手」「使い手」双方に本活動を認知していただくことによってはじめて、両者の歩み寄り…関係変革を目指す本活動が達成されたといえるだろう。横浜みなとみらい地域を出発点として、都市生活をより能動的に楽しむことができるような人々が増えていくことを望んでいる。

## 7 謝辞

本カタログ制作にあたり、資金面でのご支援を頂きました湘南藤沢学会に深く御礼申し上げます。



写真上:完成したIKEZカタログ

写真下:FW展カタログ説明の様子

